

平成 27 年度（2015 年度）
事業計画書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

はじめに	1
1. 環境認識	1
2. 基本方針	2
3. 事業別基本方針	2
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	5
【平成 27 年度の計画概要】	5
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	6
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	8
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	8
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	9
II. 普及事業（公益目的事業 2）	10
【平成 27 年度の計画概要】	10
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	11
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	14
4. 広報（公益目的事業 2.4）	15
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	17
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	18
【平成 27 年度の計画概要】	18
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	19
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	19
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	21
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	21
IV. 公益事業共通	22
V. 収益事業等	23
【平成 27 年度の計画概要】	23
1. 公認（収益事業等 1）	23
2. 商品販売（収益事業等 2）	24
VI. 管理部門	25
【平成 27 年度の計画概要】	25
1. 会員・会友	25
2. 組織運営	25
3. 企画委員会	25

はじめに

1. 環境認識

(1) 外部環境

平成 24 年 12 月に発足した第二次安倍内閣が推進する「アベノミクス」と呼ばれる金融財政政策により、金融緩和、財政出動、及び成長戦略が展開されており、国内景気の回復を通じて、長年続いたデフレからの脱却への期待感が高まっているが、その一方、消費税率が平成 26 年 4 月 1 日に 5%から 8%へ引き上げられた。さらに平成 29 年 4 月 1 日には 10%へ引き上げられることが決まっており、成長戦略の動向や先行き不透明感は、本年度においても景気への影響が懸念される。

また、近年日本の高齢化傾向は継続しており、内閣府の「平成 26 年度版高齢社会白書」によると、2013 年（平成 25 年）10 月時点での 65 歳以上の高齢者が総人口に占める割合（高齢化率）は 25.1%（前年 24.1%）、2060 年には 39.9%に拡大すると予想されている。

不透明な経済環境や社会の高齢化傾向は今後も持続すると予想され、人々の余暇活動や当連盟の運営にも影響するものと見られることから、本年度も引き続き事業運営の効率化を図りつつ、厳しい外部環境に対応していく必要がある。

(2) 内部課題

当連盟としての中長期的な課題は、以下の 3 点であると認識している。

第一に、本連盟の使命遂行のため、いかなる環境下にあっても安定した事業運営を行っていただける強固な基盤を構築すること、そのためには、業務執行体制を強化するとともに、収支均衡予算を図り、健全な財務体質を堅持することが肝要である。

平成 26 年度中に 3 ヶ所のブリッジセンターが経営終了となり、本年度は公認料収入の減少が予想される。このため、本年度より NEC ブリッジフェスティバルを隔年に開催することになり、開催年ではない本年度は黒字予算を編成した。今後開催される APBF 選手権などの開催資金の調達をする必要があり、その積立も継続して行っていく。

第二に、普及事業の再活性化である。過去 10 年程度展開してきた「ブリッジを知ってもらう」ための普及活動から一歩進み、平成 24 年度以降は「ブリッジ愛好者」になってもらうための新たなアプローチに重点を移してきたが、昨年度からは徐々にその成果が現われ始めている。本年度はこの流れが途切れないよう初級プレイヤーのニーズや普及拠点としてのブリッジセンターからの要望にもタイムリーに伝えていくことが必要である。

第三に、プレイヤーの高齢化への対応である。本連盟のシニア比率（全会友会員に占める、70 歳以上を対象とするシニア会員・シニア会友の割合）は、平成 10 年度の約 10%から平成 26 年度は約 42%へと 4 倍余りに拡大しており、日本社会全体のトレンドを上回るペースで高齢化が進展している。JCBL では昨年度よりセクショナル競技会の参加料を 500 円割引するシニア割引制度を廃止したが、高齢化傾向は今後も継続すると考えられることから、会員会友の年齢構成を常に配慮しながら、財務構造や競技会関連サービスの定期的な検証や改善に取り組んでいく必要がある。

2. 基本方針

以上の状況を踏まえ、本年度は次の 3 点を軸に事業活動を行う。

- 引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに、公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。普及事業部においては、平成 26 年度の中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継続、修正または中止を決定した後、平成 27 年度新規事業の実施計画とともに、平成 27 年度からの 3 か年の中期計画を改めて策定し、それに基づいて事業を進める。競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会を検討し、実施を目指す。またディレクターを含めた運営スタッフのレベルの維持向上、ノウハウの継承を行う。
- 昨年度発足させた「センター協議委員会」をはじめ、ブリッジ愛好者を増やしていくための拠点であるブリッジセンターとのパイプラインを強化し、より効果的な普及活動を展開していく。体験教室、入門講習会への助成だけでなく、新たな形態のブリッジサロン参加者や初級プレイヤーにも対象を拡げ、さまざまな魅力があふれるプレイ環境を構築していく。また、一昨年より実施している一部のリジョナル競技会のセンター移管は、センターの収益向上に貢献しているため、今年度も継続する。
- 昨年度は錦糸町ブリッジセンターをはじめブリッジセンターが 3 ヶ所閉鎖したが、ブリッジセンターの公認および当連盟とブリッジセンターとの関係全般を見直す時期にあると考えられる。ブリッジセンターによる競技会の開催や普及活動の推進を支援するためにも、「公認クラブおよびブリッジセンターに関する規則」の改訂、当連盟とブリッジセンターとの会計処理の基準化などに着手する。

3. 事業別基本方針

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

- 主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。
- NECブリッジフェスティバルを隔年開催とし、今年度は開催しない。
- 中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。
- 競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）の保守を継続し、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。
- ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度はナショナルディレクター養成プログラムを実施してナショナルディレクターの増員を図る。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

- 20～30 代及び新たなシニア世代を普及の主なターゲットとし、未経験者だけでなく覚えて 1～2 年程度の初心者から獲得マスターポイントが少ない初級者にも助成対象を

広げ、初心者競技会開催支援や全国各地からの無償招待キャンペーンなどのプロモーション活動を展開していく。

- パズル誌へのブリッジクイズ掲載やゲームマーケットへの出展などで興味を喚起してきた「パズル、ゲーム、勝負事志向のグループ」に対しては、これらの PR 活動を継続するだけでなく、WEB サイトに誘導して実際にカードプレイを体感してもらえるようなプロモーション活動を展開していく。
- 体験教室⇒入門講習会⇒サロン⇒競技会出場という流れにおいて、サロンの位置で滞留する傾向が強くみられる「社交、学び、自己実現志向のグループ」に対しては、サロン⇒競技会出場という流れを作るべく、スムーズに競技会出場につながっていくような制度や助成のありかたを検討し、可能なものから実施していく。
- 参加者が固定しつつあるプレイヤーズサロンは、お客さま満足度を向上させるべく、『プレイヤー第一』を前面に掲げ、楽しく学べる場、気楽に遊べる場であることを積極的にアピールし、参加者拡大を図っていく。
- 首都圏における普及活動は、新しい助成規定の下で、より充実した入門講習会のための新たなカリキュラムや普及用スタンダードシステムについても検討し、可能なものから試行していく。
- 大阪、名古屋における普及活動は、新たに大阪大学でブリッジ授業が新規開講する見込みであることから、学生層を中心とした若い世代を受け入れる場の提供や運営について、ブリッジセンターと協力しながら進めていく。
- その他の地方における普及は、必ずしも入門講習会にこだわらず、少人数でもサロン形式のプレイ場所を拡充していくよう、新たな運営形態についても検討する。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

- 本年度は、日本国内での国際競技会は開催しないが、ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。
- 2018 年にジャカルタ（インドネシア）で開催されるアジア競技大会でのブリッジ種目採用を目標に掲げ、JOC へ働きかけを行い、インドネシアコントラクトブリッジ協会とともに、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。

(4) 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図り、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連盟双方の事業基盤が強化されるような態勢の実施をめざす。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(5) 管理部門

- 平成 26 年度に続いて本年度も「新入会無料キャンペーン」を継続する。平成 26 年度の無料キャンペーンで入会した会友の継続状況を調査して、退会者減少のための方策を検討する。一方、未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管していく事業を継続する。
- 事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。
- センター協議委員会を通じてブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方や連盟の支援方法を引き続き検討していく。
- 進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【平成 27 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

主催競技会の回数と内容を見直し、本年度は昨年度に引き続き移管したリジョナル 5 競技会のブリッジセンター主催を継続する。

これまで 20 回にわたり毎年開催していた NEC ブリッジフェスティバルは、本年度より隔年開催とし、今年度は開催しない。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	40,955,000	57,052,000	-16,097,000	
経常費用	61,392,450	88,249,725	-26,857,275	
経常増減	-20,437,450	-31,197,725	10,760,275	

(3)事業別総括表

事業名	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	40,955,000	57,052,000	-16,097,000	
	経常費用	39,843,500	67,387,475	-27,543,975	
	経常増減	1,111,500	-10,335,475	11,446,975	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,755,200	1,755,200	0	
	経常増減	-1,755,200	-1,755,200	0	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	563,000	392,000	171,000	
	経常増減	-563,000	-392,000	-171,000	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	19,230,750	18,715,050	515,700	
	経常増減	-19,230,750	-18,715,050	-515,700	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- リジョナル競技会のセンター移管の追加は、今年度は行わない。移管した 5 競技会については、高い運営レベルを維持するよう支援・監督する。
- 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者招待を継続する。

② NEC ブリッジフェスティバル

- これまで毎年開催していた NEC ブリッジフェスティバルを隔年に開催することとし、今年度は開催しない。
- 今年度は NEC ブリッジフェスティバルのサイドゲームとして開催していた横浜スイスチーム、飛鳥杯のみパシフィコ横浜で開催する。
- パシフィコシリーズは今年度も開催し、上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを飛鳥杯に招待する。パシフィコシリーズ賞品及び飛鳥杯招待費用以外は平成 28 年度開催の NEC ブリッジフェスティバルの開催資金とする。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	40,955,000	57,052,000	-16,097,000	
経常費用	39,843,500	67,387,475	-27,543,975	
経常増減	1,111,500	-10,335,475	11,446,975	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)主催競技会	前年度並み	経常収益	38,735,000	43,012,000	-4,277,000	
		経常費用	37,653,500	37,945,295	-291,795	
		経常増減	1,081,500	5,066,705	-3,985,205	
(2)NEC ブリッジフェスティバル	縮小	経常収益	2,220,000	14,040,000	-11,820,000	2015 年 2 月以降隔年開催。2015 年度は横浜スイス、飛鳥杯のみ開催
		経常費用	2,190,000	29,442,180	-27,252,180	
		経常増減	30,000	-15,402,180	15,432,180	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 18、19 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	95
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5 月 9、10、16、17 日	4 日	四谷 BC	104
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	8 月 1、2 日	2 日	グランドホテル 浜松	30
藤山杯 (予選・決勝)	7 月 4、5 日	2 日	四谷 BC	95
外務大臣杯 (予選・決勝)	8 月 22、23 日	2 日	四谷 BC	47
高松宮記念杯	9 月 19、20、21、 22、23 日	5 日	四谷 BC / 五反田 BS	104
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	9 月 26、27 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	87
高松宮妃記念杯 (予選・決勝)	10 月 31 日、11 月 1 日	2 日	四谷 BC	80
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 23 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	98
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 23 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	38
朝日新聞社杯	1 月 9、10、11 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	155
2) 日本リーグ				
1 部	前期：4 月・6 月、 後期：12 月・1 月	各 4 日	四谷 BC	16
2 部		各 4 日	四谷 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯	4 月 4、5 日	2 日	四谷 BC/五反田 BS/高田馬場 BC	115
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	82
井上杯 (予選・決勝)	5 月 30、31 日	2 日	四谷 BC	41
井上歌子杯	5 月 31 日	1 日	四谷 BC	26
渡辺杯	3 月 28、29 日	2 日	四谷 BC	40
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				16

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① 競技会運営管理システム
 - ・ 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、新形式の競技会に対応する。
 - ・ スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
 - ・ 競技会速報システムを改良し使用を推進する。
- ② 競技会運営環境の整備と維持
 - ・ 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。
- ③ 競技委員会管轄事項
 - ・ 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。
- ④ ルール委員会管轄事項
 - ・ 「デュプリケートコントラクトブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,755,200	1,755,200	0	
経常増減	-1,755,200	-1,755,200	0	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,489,200	1,489,200	0	
		経常増減	-1,489,200	-1,489,200	0	
(2)競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	246,000	246,000	0	
		経常増減	-246,000	-246,000	0	
(3)ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① ディレクター講習会
 - ・ 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で 1 回、地方で 1 回開催する。

- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各 1 回開催する。
- ② ナショナルディレクター養成プログラム
- 奇数年度である本年度は、ナショナルディレクター養成プログラムは実施する。
 - 現役ナショナルディレクターの技能向上のため、本年度より認定試験を行う。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	563,000	392,000	171,000	
経常増減	-563,000	-392,000	-171,000	

(2)個別事業一覧

表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)ディレクター講習会	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	70,000	192,000	-122,000	
		経常増減	-70,000	-192,000	122,000	
(2)ナショナルディレクター養成プログラム	拡大	経常収益	0	0	0	プログラム実施年
		経常費用	493,000	200,000	293,000	
		経常増減	-493,000	-200,000	-293,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1)計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	19,230,750	18,715,050	515,700	
経常増減	-19,230,750	-18,715,050	-515,700	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	19,230,750	18,715,050	515,700	
		経常増減	-19,230,750	-18,715,050	-515,700	

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【平成 27 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図り、児童・青少年の健全な育成、国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与することを目的とする。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の 4 事業を行う。

平成 25 年度以前からの継続事業に対しては引き続き費用の見直しを行い、より効率的な活動を行っていく。

平成 25 年度および平成 26 年度から開始した新規事業は、一部の活動が平成 26 年度後半からようやく軌道に乗ってきた。これらの事業は通常の継続事業と位置付けて、平成 27 年度はその流れが順調に進むよう状況をよく見ながら問題把握に努め、環境変化にもタイムリーに対応していく。一方、計画通りに進捗しない事業に関しては、課題を整理して対応を検討し、手段の見直しや態勢の立て直しを図る。

平成 27 年度の新規事業に関しては、コストをかけずに原則として内製化できるものを進めていく。

（平成 27 年度の主な変更点）

- 体験イベントの開催（公益事業 2.1）

平成 27 年度は NEC ブリッジフェスティバルが開催されないことから、体験イベントも行わない。ただし、初心者競技会は通常の普及事業とし、希望する全国のブリッジセンターに運営を委託して開催する。

その他、平成 26 年度をもって当初の目的が達成されたと判断したものは活動を終了する。

- 講習会の開催（公益事業 2.2）

公認資格制度導入の前段として、ブリッジに限定しない一般的なスキルアップのためのインストラクター講習会を開催する。

「講習カリキュラムなし、レベルによるクラス分けなしの体験・入門サロン」について、コストや運営方法を検討する。

- 体験教室・講習会等の実施支援（公益事業 2.3）

新しい助成規程を積極的にアピールすることで受講者倍増を図る。

明治大学では通年の授業となり、大阪大学では下半期に新規開講する。福岡大学での授業は平成 26 年度で終了した。

- 広報（公益事業 2.4）

不特定多数を対象にした PR 活動からターゲットを絞った PR 活動にシフトすることで、コストパフォーマンス向上を図る。

ネット経由の情報を充実させて新たにネットゲーム環境を構築し、潜在プレイヤーへのプロモーションを図る。

- 管理（公益事業 2.5）

初年度年会費無料制度を継続し、キャンペーンの効果を測定、評価する。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	794,000	1,694,000	-900,000	
経常費用	58,707,600	61,630,000	-2,922,400	
経常増減	-57,913,600	-59,936,000	2,022,400	

(3)事業別総括表

事業名	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
2.1 体験イベント の開催	経常収益	70,000	550,000	-480,000	愉しむ会終了
	経常費用	1,920,000	3,880,000	-1,960,000	
	経常増減	-1,850,000	-3,330,000	1,480,000	
2.2 講習会等の開 催	経常収益	0	0	0	プレイヤーズサロン拡大
	経常費用	2,820,000	2,140,000	680,000	
	経常増減	-2,820,000	-2,140,000	-680,000	
2.3 体験教室・講 習会等の実施支 援	経常収益	0	420,000	-420,000	大阪大学開講ほか
	経常費用	17,910,000	18,230,000	-320,000	
	経常増減	-17,910,000	-17,810,000	-100,000	
2.4 広報	経常収益	724,000	724,000	0	掲載誌見直しほか
	経常費用	8,516,600	10,966,000	-2,449,400	
	経常増減	-7,792,600	-10,242,000	2,449,400	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	27,541,000	26,414,000	1,127,000	
	経常増減	-27,541,000	-26,414,000	-1,127,000	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1)計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高め
てもらうための各種体験イベントを実施する。

① 文化・教育関連イベント出展

- 国民文化祭（11月鹿児島開催）
- 霞が関子ども見学デー（8月）
- 関西ジュニアペア碁大会（8月）
- ゲームマーケット東京（4月、11月）
- ゲームマーケット大阪（3月）
- 他団体が開催する新しいPRイベントに、年1回参加することを目標にする。

② 一般向け体験イベント

- 初心者競技会体験大会（年6回開催することを目標にする）

③ ジュニア向け体験イベント（ジュニアクラブイベント）

- 体験教室／入門講習会／練習会／競技会（15名の新入会を目標にする）

なお、愉しむ会およびユースキャンプは平成26年度をもって終了した。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	70,000	550,000	-480,000	事業規模見直しにより費用減
経常費用	1,920,000	3,880,000	-1,960,000	
経常増減	-1,850,000	-3,330,000	1,480,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	縮小	経常収益	0	0	0	鹿児島開催
		経常費用	150,000	280,000	-130,000	
		経常増減	-150,000	-280,000	130,000	
(1)文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	前年度並み	経常収益	0	0	0	ゲームマーケット拡大
		経常費用	510,000	510,000	0	
		経常増減	-510,000	-510,000	0	
(2)一般向け体験イベント NECBF 体験教室	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	950,000	-950,000	
		経常増減	0	-950,000	950,000	
(2)一般向け体験イベント 初心者大会の開催	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	730,000	490,000	240,000	
		経常増減	-730,000	-490,000	-240,000	
(2)一般向け体験イベント ブリッジを愉しむ会	休止・中止	経常収益	0	480,000	-480,000	愉しむ会開催終了
		経常費用	0	610,000	-610,000	
		経常増減	0	-130,000	130,000	
(3)ユース向け体験イベント ユースキャンプ	休止・中止	経常収益	0	0	0	ユースキャンプ開催終了
		経常費用	0	500,000	-500,000	
		経常増減	0	-500,000	500,000	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアくらぶ運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアくらぶ体験イベント	前年度並み	経常収益	70,000	70,000	0	
		経常費用	510,000	520,000	-10,000	
		経常増減	-440,000	-450,000	10,000	

2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① インストラクター講習会

- 公認資格制度導入の前段として、ブリッジに限定しない一般的なスキルアップのためのインストラクター講習会を年 1 回開催する。

② ユース向け講習会

- 「ユース育成プロジェクト」の一環としての技術向上支援を行う。（通年）
（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）

③ プレイヤーズサロンの拡充

- 遊びながら上達することを目指すプレイヤーズサロンは、毎月 1 回常設されている 3 センターに加え、新たに 1 センターで開催することを目標にする。

④ 新形態サロンの検討（新規事業）

- 会員制リゾートホテルやテニスクラブあるいはデパートの外商顧客など、特定メンバーを対象にした「講習カリキュラムなし、レベルによるクラス分けなしの体験・入門サロン」について、コストや運営方法を検討する。

(2) 収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	事業規模見直しにより費用減
経常費用	2,820,000	2,140,000	680,000	
経常増減	-2,820,000	-2,140,000	-680,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)ブリッジインストラクター講習会	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	500,000	130,000	370,000	
		経常増減	-500,000	-130,000	-370,000	
(2)ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,670,000	1,680,000	-10,000	
		経常増減	-1,670,000	-1,680,000	10,000	
(5)プレイヤーズサロン	拡大	経常収益	0	0	0	3 センターに拡大
		経常費用	650,000	330,000	320,000	
		経常増減	-650,000	-330,000	-320,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

① 一般支援

- ・ 教室助成（体験教室、入門講習会、カルチャースクール講座、サロン形式実習講習会）
新しい助成規程を積極的にアピールすることで受講者倍増を図り、平成 27 年度は入門講習会の受講者数 700 名を目標にする。
- ・ 体験イベント支援、海外クラブ支援
原則として申請に応じて助成する。
- ・ 地方活性化活動（地方クラブ支援）
地方クラブ・センターと相談しながら、それぞれが抱える課題に応じた支援を行う。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・ 大学ブリッジ講座支援（東京大学、早稲田大学、青山学院大学、明治大学、大阪大学）
明治大学は平成 27 年度から通年授業（半期×2 回）を行う。大阪大学は平成 27 年度下半期から新規開講予定。福岡大学は平成 26 年度で終了。

③ 学校・学生支援

- ・ 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）
- ・ 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）
- ・ 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	420,000	-420,000	
経常費用	17,910,000	18,230,000	-320,000	
経常増減	-17,910,000	-17,810,000	-100,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	内訳見直し
		経常費用	11,310,000	11,320,000	-10,000	
		経常増減	-11,310,000	-11,320,000	10,000	
(1)普及活動支援 地方活性化支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	580,000	720,000	-140,000	
		経常増減	-580,000	-720,000	140,000	
(2) 学校講座支 援 教師派遣・ 授業拡大	前年度並み	経常収益	0	0	0	大阪大学開講準備
		経常費用	460,000	440,000	20,000	
		経常増減	-460,000	-440,000	-20,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座① 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：ロバートゲラー
		経常費用	840,000	800,000	40,000	
		経常増減	-840,000	-800,000	-40,000	

(2) 学校講座支援 大学講座② 早稲田大学	前年度並み	経常収益	0	420,000	-420,000	講師:並木亮
		経常費用	1,550,000	1,550,000	0	
		経常増減	-1,550,000	-1,130,000	-420,000	
(2) 学校講座支援 大学講座③ 福岡大学	終了	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	1,330,000	-1,330,000	
		経常増減	0	-1,330,000	1,330,000	
(2) 学校講座支援 大学講座④ 青山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:島村京子
		経常費用	1,300,000	1,380,000	-80,000	
		経常増減	-1,300,000	-1,380,000	80,000	
(2) 学校講座支援 大学講座⑤ 明治大学	新規	経常収益	0	0	0	講師:清水映樹
		経常費用	700,000	0	700,000	
		経常増減	-700,000	0	-700,000	
(3)学校・学生の普及活動支援	拡大	経常収益	0	0	0	新入生増加
		経常費用	1,170,000	690,000	480,000	
		経常増減	-1,170,000	-690,000	-480,000	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1)計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

- ・ メディア広告など JCBL すべての事業を広く世間にアピールするための PR 活動（随時）
- ・ 地域イベント参加やブリッジ図書寄贈など特定ターゲットを対象にした PR 活動（随時）
- ・ 体験教室や入門講習会の受講者の来場を促進するためのプロモーション活動（随時）
- ・ 広報ツール・パンフレットなどの企画・開発（随時）
- ・ 普及・会員サービスに活用可能なプロモーショングッズの製作または購入（随時）

① 広報宣伝 PR 活動

- ・ パズル誌、機内誌への出稿は頻度および掲載枠を縮小して継続する。
- ・ 「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。
- ・ 体験教室、入門講習会開催告知のための全国一斉広告を年 2 回実施する。
- ・ 記録ビデオを DVD 化して JCBL ライブラリー化し、会員・会友に貸し出し可能な仕組みを構築する。
- ・ 遊び方を紹介したビデオや入門レベルのチュートリアルビデオを制作し、シリーズ化してネット（YouTube 等の動画投稿サイト）で公開する計画は、より簡潔なものを制作するよう企画を見直していく。

② プロモーション活動

- ・ 気軽にできる無料 WEB 検定（級位認定試験）を試行する。
- ・ ネットゲーム環境として BBO に JCBL 専用ルームを開設する。
- ・ 全国のブリッジセンター・ブリッジクラブと一体になったプロモーション制度の設計や年数回程度しか競技会に出場しない会員・会友を対象にした活性化キャンペーンを展開する計画は、1 センターをモデルケースとして運用可能な方法を検討していく。

- ③ 出版物の刊行
- 普及用スタンダードシステムに準拠した入門レベル教材を制作する。
 - 初心者向け解説書を 1 冊制作し、出版する。
- ④ ウェブサイト運営
- 助成に関するディレクトリを見直し、わかりやすく見やすい構成に変更する。
- ⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付
- 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	724,000	724,000	0	
経常費用	8,516,600	10,966,000	-2,449,400	
経常増減	-7,792,600	-10,242,000	2,449,400	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)広報宣伝活動	縮小	経常収益	724,000	724,000	0	掲載誌・掲載回数見直し
		経常費用	7,724,000	9,030,000	-1,306,000	
		経常増減	-7,000,000	-8,306,000	1,306,000	
(2)出版 入門コース教材 作成	縮小	経常収益	0	0	0	原稿料削除
		経常費用	300,000	880,000	-580,000	
		経常増減	-300,000	-880,000	580,000	
(3)ウェブサイト JCBL ウェブサイトの運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	268,000	268,000	0	
		経常増減	-268,000	-268,000	0	
(3)ウェブサイト 普及通信の編集 発行	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	24,600	48,000	-23,400	
		経常増減	-24,600	-48,000	23,400	
(4) 広報ツールの 作成・配付	縮小	経常収益	0	0	0	新規企画グッズ削除
		経常費用	200,000	440,000	-240,000	
		経常増減	-200,000	-440,000	240,000	
(5)ネットブリッジの 試作	休止・中止	経常収益	0	0	0	BBO 経費負担なし
		経常費用	0	300,000	-300,000	
		経常増減	0	-300,000	300,000	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- 普及ネットの運営
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計
- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	27,541,000	26,414,000	1,127,000	
経常増減	-27,541,000	-26,414,000	-1,127,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
普及 ネットプロジェクト	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	40,000	114,000	-74,000	
		経常増減	-40,000	-114,000	74,000	
管理費 普及事業部	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	27,501,000	26,300,000	1,201,000	
		経常増減	-27,501,000	-26,300,000	-1,201,000	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【平成 27 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の3事業を行う。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	612,000	540,000	72,000	
経常費用	21,667,300	16,153,050	5,514,250	
経常増減	-21,055,300	-15,613,050	-5,442,250	

(3)事業別総括表

事業名	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	72,000	0	72,000	国際競技会開催予定なし
	経常費用	0	0	0	
	経常増減	72,000	0	72,000	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	540,000	540,000	0	
	経常費用	15,945,500	10,692,100	5,253,400	
	経常増減	-15,405,500	-10,152,100	-5,253,400	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,154,800	1,116,050	38,750	
	経常増減	-1,154,800	-1,116,050	-38,750	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	4,567,000	4,344,900	222,100	
	経常増減	-4,567,000	-4,344,900	-222,100	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

今年度は日本国内で国際大会は開催しない。

平成 32 年（2020 年）に APBF 関連の競技会開催を目標に開催資金の積立を行う。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	72,000	0	72,000	
経常費用	0	0	0	
経常増減	72,000	0	72,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)APBF 選手権/ コンGRESS		経常収益	72,000	0	72,000	国際大会開催準備金
		経常費用	0	0	0	受取利息のみ計上
		経常増減	72,000	0	72,000	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、平成 28 年開催の世界ブリッジゲームズに派遣するオープン、ウィメン、シニア各 1 チームの日本代表を選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

- 第 50 回 APBF 選手権、
5 月 20 日から 5 月 31 日にバンコク（タイ）で開催される APBF 選手権にオープン、ウィメン、シニア各 1 チームの選手、キャプテン及び役員、代表委員の派遣を行う。
- 第 42 回世界ブリッジチーム選手権
第 50 回 APBF 選手権で世界選手権の出場資格を得た場合には、9 月 26 日から 10 月 10 日にチェンナイ（インド）で開催される世界ブリッジチーム選手権に日本代表チームを派遣する。
- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- APBF 選手権（グレード I）
- 世界ユースオープン選手権（グレード II）

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	540,000	540,000	0	
経常費用	15,945,500	10,692,100	5,253,400	
経常増減	-15,405,500	-10,152,100	-5,253,400	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)日本代表選抜	縮小	経常収益	540,000	540,000	0	
		経常費用	1,352,000	1,822,000	-470,000	
		経常増減	-812,000	-1,282,000	470,000	
(2)国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	2,846,400	2,871,400	-25,000	
		経常増減	-2,846,400	-2,871,400	25,000	
(2)国際競技会派遣 世界選手権	拡大	経常収益	0	0	0	World Bridge Series は代表派遣なし→世界選手権 3 チーム派遣
		経常費用	6,786,000	800,000	5,986,000	
		経常増減	-6,786,000	-800,000	-5,986,000	
(2)国際競技会派遣 その他	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	300,000	300,000	0	
		経常増減	-300,000	-300,000	0	
(2)国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	420,000	840,000	-420,000	
		経常増減	-420,000	-840,000	420,000	
(3)ユース育成プログラム APBF 選手権派遣	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,676,200	1,809,800	-133,600	
		経常増減	-1,676,200	-1,809,800	133,600	
(3)ユース育成プログラム 世界選手権派遣	#DIV/0!	経常収益	0	0	0	大会は開催されるが、 日本は出場資格なし
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
(3)ユース育成プログラム 世界ユースコンgres /大学選手権	前年度並み	経常収益	0	0	0	ユースコンgres
		経常費用	1,964,900	1,648,900	316,000	
		経常増減	-1,964,900	-1,648,900	-316,000	
(3)ユース育成プログラム その他国際競技会参加支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	600,000	600,000	0	
		経常増減	-600,000	-600,000	0	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

- ① 世界同時大会への参加
 - ・平成 27 年 6 月 5～6 日に開催される世界同時大会開催に参加協力する。
- ② APBF 同時大会への参加
 - ・平成 27 年 11 月～平成 28 年 4 月まで開催が予定されている APBF 同時大会開催に参加協力する。
- ③ 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集
 - ・ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
 - ・APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
 - ・WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,154,800	1,116,050	38,750	
経常増減	-1,154,800	-1,116,050	-38,750	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,154,800	1,116,050	38,750	
		経常増減	-1,154,800	-1,116,050	-38,750	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	4,567,000	4,344,900	222,100	
経常増減	-4,567,000	-4,344,900	-222,100	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	4,567,000	4,344,900	222,100	
		経常増減	-4,567,000	-4,344,900	-222,100	

IV. 公益事業共通

【平成 27 年度の計画概要】

(1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	17,663,150	18,282,250	-619,100	
経常費用	0	0	0	
経常増減	17,663,150	18,282,250	-619,100	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
公益事業共通		経常収益	17,663,150	18,282,250	-619,100	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	17,663,150	18,282,250	-619,100	

V. 収益事業等

【平成 27 年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、販売事業は事務局が担当する。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	148,369,920	153,557,920	-5,188,000	
経常費用	39,871,980	40,070,440	-198,460	
経常増減	108,497,940	113,487,480	-4,989,540	

(3)事業別総括表

事業名	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
1 公認	経常収益	128,269,920	133,277,920	-5,008,000	
	経常費用	21,492,980	21,211,440	281,540	
	経常増減	106,776,940	112,066,480	-5,289,540	
2 商品販売	経常収益	20,100,000	20,280,000	-180,000	
	経常費用	18,379,000	18,859,000	-480,000	
	経常増減	1,721,000	1,421,000	300,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を、公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸ルールに基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては平成 27 年度の普及活動実施状況により、平成 28 年度の公認料率を決定する。
- ・ ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。
- ・ 参加制限のないペア戦の公認料割引を平成 27 年 9 月まで行い、開催状況、参加状況を確認の上、割引を継続するかどうか決定する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	128,269,920	133,277,920	-5,008,000	
経常費用	21,492,980	21,211,440	281,540	
経常増減	106,776,940	112,066,480	-5,289,540	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
(1)競技会の公認	前年度並み	経常収益	128,269,920	133,277,920	-5,008,000	
		経常費用	20,260,980	19,919,440	341,540	
		経常増減	108,008,940	113,358,480	-5,349,540	
(2)コントラクトブリッジクラブの公認と育成	前年度並み	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリアフリー工事助成
		経常費用	1,232,000	1,292,000	-60,000	
		経常増減	-1,232,000	-1,292,000	60,000	
		経常増減	-1,232,000	-1,292,000	60,000	

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1)計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	20,100,000	20,280,000	-180,000	
経常費用	18,379,000	18,859,000	-480,000	
経常増減	1,721,000	1,421,000	300,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
商品販売事業	前年度並み	経常収益	20,100,000	20,280,000	-180,000	
		経常費用	18,379,000	18,859,000	-480,000	
		経常増減	1,721,000	1,421,000	300,000	

VI. 管理部門

【平成 27 年度の計画概要】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：8,000 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：8,200 部

② JCBL ライブラリーの運営

- 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 前年度に引き続き新規入会者の会費を平成 28 年 3 月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者に QUO カードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3. 企画委員会

- 企画委員会のミッションは、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革である。
- 昨年度に引き続き、今年度も連盟の中長期的な財政基盤をさらに充実させ、現在のブリッジの競技環境を維持してゆきたいと考えている。とりわけ、競技会参加者数の減少が恒常的に続く可能性を踏まえ、従来にもまして参加者数の増加に資する施策を提案し、可能な限り早期に実施する。
- 競技委員会と協力して、トーナメント・ディレクターの役割や業務を見直し、選考および資格更新を含めて能力向上を検討するワーキンググループを発足させたが、当委員会での活動を支援する。
- センター協議委員会で実施する予定の「公認クラブおよびブリッジセンターの規則」の改訂および連盟とセンター間の会計処理原則の基準化作業を支援する。

(2)収支総括	27 予算	26 予算	前年差	備考
経常収益	18,304,150	18,923,250	-619,100	
経常費用	41,185,900	43,872,500	-2,686,600	
経常増減	-22,881,750	-24,949,250	2,067,500	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	27 予算	26 予算	前年差	備考
1. 会員・会友 (1)刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,558,000	3,558,000	0	
		経常増減	-3,558,000	-3,558,000	0	
1. 会員・会友 (2)JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	290,000	350,000	-60,000	
		経常増減	-290,000	-350,000	60,000	
1.会員・会友 (3)キャンペーン	縮小	経常収益	0	0	0	初心者大会ペア招待 費用のうち通常の普 及活動分は公 2.1.2 で計上
		経常費用	280,500	880,500	-600,000	
		経常増減	-280,500	-880,500	600,000	
2.組織運営 (1)管理部	縮小	経常収益	18,304,150	18,923,250	-619,100	
		経常費用	37,057,400	38,884,000	-1,826,600	
		経常増減	-18,753,250	-19,960,750	1,207,500	
2. 組織運営 (2)九州支部支援 事業	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	200,000	-200,000	
		経常増減	0	-200,000	200,000	